

同人誌即売会レポート（東京ビッグサイト）

国際日本学部 日本文化学科3年 大島 颯太

2024年10月27日、残暑がうっすら残るこの時期に、Comic City Spark 19が開催されました。ウエルカーゼミに所属している私たちは、国際展示場駅のロースンの近くに集合しました。10時半というややゆつくりめの集合ではあったものの、やはりまだ多くの一般参加者が駅周辺に見受けられました。私自身、同人誌即売会への参加は初めてであったため、このComic City Spark 19に参加した私の肌感覚を率直にお伝えできたらと考えています。そして、この記事を見て、同人誌即売会に少しでも興味を持っていただけると幸いです。

まず、同人誌即売会とは、個人や同人サークルといった方々が、創作した作品を直接販売するイベントです。また、そのような作品を購入することを目的として訪れる人たちのことを、一般参加者と呼びます。今回参加した私たちも、この一般参加者の中に含まれます。逆に、作品を頒布する側の人たちを、サークル参加者と呼びます。なぜここで販売ではなく、頒布を使うのかという点に、同人誌と一般的な作品との違いが表れていると感じました。頒布は、辞書的には、広くいきわたら

せるという意味があります。同人誌は利益追求には否定的な立場を取った作品であり、あくまで制作にかかった材料費などの回収のためとして販売されています。また、同人誌は多くが二次創作の作品であり、特に二次創作作品は、営利目的ではなくファン活動と位置付けられているようです。このような同人誌ならではの特徴は、あまり馴染みのない私にとって新鮮でした。実際会場内では、作品を超えた交流が随所に感じられ、販売者と顧客といった単純な構造にはあてはめられないものがそこにはありました。

ウエルカーゼミの中で、いくつかのグループに分かれた後、それぞれのグループで自由行動を行いました。残暑と会場の熱気が相まって、会場内は外よりも暑く感じられました。最初に会場に入った際の印象は、女性の一般参加者が多いなということでした。また、それと同時に、二次創作のBL作品が多いという印象も感じました。私自身はそこまでBL作品やNL作品（男女のカップリング）に興味がなかったため、他にはどのような作品があるのかに注目して回ることにしました。その中で個人的に印象深かったものを紹介し

たいと思います。

一つは、某アイス自販機のアイスを紹介している同人です。その本ではアイスの紹介だけでなく成分に至るまで、とても詳しく記載されています。マンガやアニメに関するものが同人誌であると考えてきたので、このような同人誌もあるのかと驚きました。

二つ目は、作品の中に登場するご飯を紹介していた同人誌です。私の見た同人誌では、実際に調理した料理の写真も載せられていて、レシピも書いてありました。実際に作ってみたくなるような、面白い発想の同人誌だと感じました。このレシピで料理を作れば、アニメの中の登場人物と同じご飯が食べられるというのは、ファンにとって充実したファン活動を与えてくれるものであると考えました。

三つめは、一次創作作品です。今回のイベントでは、私自身一つしか見つけることができませんでした。その同人誌には、日常のほのぼのの漫画が描かれていて、BL作品に挟まれながらも、個性を出していて、思わず作品を見に行きたくなりました。恋愛以外を題材にした作品に着目してみる

と、思いのほか少なかったですが、それぞれ好きなことを極め、頒布しているのだとわかりました。作品ジャンルや作品の形態にかかわらず、どの方も楽しそうにイベントに参加していました。そこには創作や交流の喜びが感じられ、一つの文化となって形成されています。

二次創作は、パクリとの境目がグレーゾーンです。確かに、会場内の多くの作品は、オリジナル作品のキャラクターや、作品名が元となつて作られています。しかし、現在それを否定する人はほとんどいません。なぜなら、それによつてもたらされる作品と人との豊かな喜びが、この同人誌即売会にあるからです。



Comic City Spark 19 に向かうウェルカーゼミ一行